千葉中央博研究報告（J. Nat. Hist. Mus. Inst., Chiba）18（1）: 23–30. March 2026

資料紹介

千葉県立中央博物館新収蔵資料「杉野俊三郎氏関係資料」について

玉井里奈[1)]*・鈴木建人[2), 3)]・園部華与[1)]

[1)]千葉県立中央博物館

〒 260-8682　千葉市中央区青葉町 955-2

[2)]千葉県環境生活部スポーツ・文化局文化振興課

〒 260-8667　千葉市中央区市場町 1-1

[3)]千葉県立中央博物館 市民研究員

*E-mail: r.tmi7@pref.chiba.lg.jp

（2025 年 10 月 31 日投稿；12 月 19 日改訂；2026 年 1 月 9 日受理）

要　旨　杉野俊三郎氏関係資料群は、昭和初期に陸軍電信部隊として中国北部等への出征経験がある杉野俊三郎氏に関わるもので、令和 7 年（2025）5 月 15 日付で千葉県立中央博物館が寄贈を受けた。本資料群には従軍画家が描いたと思われる絵が複数含まれており、これらは戦地における軍人と従軍画家との文化的な交流を物語る。その他の資料と併せて、戦地における杉野の人間関係や、戦地への視線という内心・心象を伺わせる資料として展示や戦争教育などの場面での活用が想定されるほか、県立美術館と連携した調査研究・展示など、多分野にわたる活用も見込まれる。

キーワード：戦争資料、従軍画家、大野隆徳、中島清之

本稿では千葉県立中央博物館が令和 7 年（2025）5 月 15 日付で寄贈を受けた「杉野俊三郎氏関係資料」について、その概要及び特徴的な資料数点とその背景を紹介する。

1.「杉野俊三郎氏関係資料」の概要及び杉野俊三郎氏について

（1）資料群の概要

当資料群は、昭和初期に陸軍電信部隊として中国北部等への出征経験がある杉野俊三郎氏（以下、杉野。敬称略）に関わるものである。陸軍における杉野の階級や交友関係のほか、戦時中の国内及び、中国北部・東北部の風景や生活についてうかがうことができる。

寄贈者は杉野の孫にあたり、これら資料群は千葉市内に所在した杉野家住宅にて保管されていた。現在は県立中央博物館本館で歴史資料として登録･保管されている。

（2）寄贈までの経緯

令和 6 年（2024）9 月 25 日午前、千葉県文化振興課へサーベル・日本刀等を寄贈したい旨の問い合わせがあり、県立中央博物館が案内された。午前のうちに寄贈者が来館し、筆者ら同館研究員が対応した。サーベル等の写真を拝見しながら事情を伺ったところ、寄贈者は千葉市内の杉野家住宅の「家じまい」中で、翌日には全ての家財道具を処分する予定であった。こうした事情から緊急性が高いと判断し、当日午後に現地調査を行った。

刀剣類寄贈の相談であったが、杉野の軍歴の参考として寄贈者が取り置いてくれた写真アルバムや胸像、自筆と思われる絵葉書（風景画）などを実見し、一体の資料群として価値があると判断されたため、併せて引き受けたい旨を申し出た。

刀剣登録証のないサーベル・日本刀については、寄贈者が警察署に問い合わせたところ、遠方に住む寄贈者にとって手続き上のハードルが多かったことから、日本刀は署で廃棄、サーベルは刀身を切断し、柄と鞘を残すこととした。なお切断は寄贈者自らが工具を購入して行ったもので、大変なご尽力をいただいた。

その後、資料審査会を経て計 15 点が令和 7 年（2025）5 月 15 日付で受入れとなった。

（3）杉野俊三郎について

杉野俊三郎（図 1）は明治 28 年（1895）岡山県に生まれた。陸軍の電信部隊として北樺太や当時の満州（中国東北部）、北支（中国北部）への出征経験がある。

履歴申立書によれば、大正 7 年（1918）陸軍に入隊し、大正 12 年～ 14 年（1923 ～ 1925）には陸軍電信隊有線

図 1. 杉野俊三郎氏写真.
（CBM-HM 638-0014）

電信班として北樺太へ派遣されている。昭和 7 年～ 10 年（1932 ～ 1935）に満州派遣、昭和 12 年～ 15 年（1937 ～ 1940）及び同 18 年～ 23 年（1943 ～ 1948）復員まで北支へ派遣され戦時中は電信部隊として中国大陸で活動した。昭和 18 年（1943）に北支電信第 9 連隊長へ任命、昭和 20 年（1945）3 月に陸軍大佐となった。戦後は岡山県のち千葉県君津郡大佐和町（現在の富津市）や千葉市 (1) で暮らした。昭和 38 年（1963）没。

2．資料群の詳細

本資料群は表 1 のとおりである。ここからいくつかの資料を取り上げ、以下で解説する。HM に続く 3 桁の数字及び 4 桁の枝番は、千葉県立中央博物館の歴史資料登録番号（CBM-HM 歴史）である。

（1）写真アルバム

HM 638-0006 ～ HM 638-0010 の 5 点は、杉野と家族との記念写真や行楽写真、軍服で正装した杉野の写真、友人・知人たち、あるいは軍で関わりのあった人々との写真などを納めたアルバムであり、北支にて撮影されたものも含まれる。なお、寄贈資料中のサーベル（HM 638-0001）であるかは不明だが、サーベルを持った杉野のプリント写真（図 1、HM 638-0014）もある。

年代としては大正～昭和 39 年（1964）にわたる。資料「写真アルバム」（HM 638-0010）には杉野没後に戦友たちが開いた追悼会の写真や記事、杉野への追悼記事などが貼りつけられており、写真と併せて杉野の陸軍における人物や交流をうかがわせる資料といえる。

また、『旧第一軍通信部隊想い出のアルバム』（HM 638-0015）は電信第 9 連隊の戦友会 (2) である山西友の会が昭和 53 年（1978）に発行したものである。2 代目の電信第 9 連隊長として杉野の写真があるほか、陸軍第 1 軍通信部隊が展開していた地域の写真も掲載されており、杉野の写真アルバムと併せて、後述のスケッチブックや絵はがきが描かれた背景を補完する資料・情報として重要である。

（2）スケッチと従軍画家について

資料「スケッチブック」（HM 638-0005）には、漢詩や、複数名によるスケッチが描かれている。ここには「陸軍工兵少尉　藤田二郎」「二郎」や「吟汀」との署名のある絵のほか、昭和 13 年（1938）に北支へ赴いた画家、大野隆徳（おおの・たかのり / りゅうとく）(3) や中島清之（なかじま・きよし）(4) とみられる人物の署名が入った絵も含まれている。なお 30 丁表には「皇国慰問隊」として、代表 1 名含む 6 名の名前と 5 名の女性が写った写真が貼付されているが、これについてはさらなる検証が必要なため後稿に譲りたい。

①大野隆徳（1886 生～ 1945 没）

スケッチブックの 15 丁表に「昭和十三年三月八日於泰安　隆徳」の筆書きとともに、山々を背にした建物の絵が描かれている（図 2）。また、ここには画家・大野隆徳の略歴を記した紙が挟み込まれていた（図 3）。

大野は陸軍の許可を得て昭和 13 年（1938）2 月 12 日に北支に向けて出発し、6 日間を要して現在の天津市にあたる塘沽へ上陸。天津から北京を経て済南へ到着しここへ滞在、その後北京にも滞在し 4 月末に帰国した。［大野 1939］

図 2. 「昭和十三年三月八日　於泰安　隆徳」.（スケッチブック（CBM-HM 638-0005）より）

現地でのスケッチの題材や、現地で関わった軍人について大野は自身の画集『大野隆徳北支中支従軍画集』（1939 年、美術工芸会）に次のように記している。

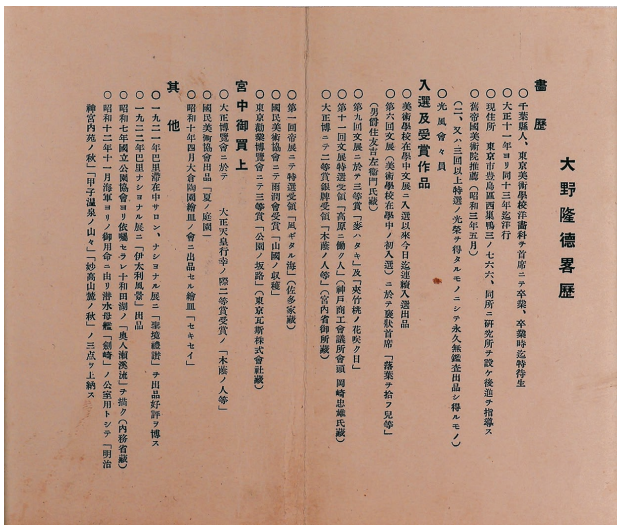
…黄河畔に、爆破せられた大鉄橋や、戦跡として縁の深い鵲山等を始め濼口鎮、楳山、藥山を始め済南城内の大明湖、趵突泉、黒虎泉を描き山東省政府の爆撃せられたる跡を見、郊外の千佛山に上り、或は津浦線を徐州方面に向って進み、泰安迄行って泰安及び泰山々麓等を描いた。斯くて泰安より津浦線を引返し済南にて袖山副官の外矢野少佐、杉野少佐、長島中尉等諸氏の御好意を得て写生を進め、再び北京へ向った。［大野 1939］（下線は筆者による）

表 2 のとおり杉野は昭和 12 年（1937）8 月より北支へ赴いていること (5)、また昭和 13 年（1938）当時の階級は陸軍工兵少佐であることから、大野のいう「杉野少佐」は杉野俊三郎であると考えてよいだろう。

大野の画集『大野隆徳北支中支従軍画集』に掲載されているスケッチ「休む兵馬　廬州城壁」の署名「隆徳」、「光州　昭和十三年十一月七日」の筆跡と比較すると、筆記具の違いか「隆徳」の書き方にはやや違いがあるが、「和」や「年」「月」の字形はほぼ一致している（図 4）。絵のタッチなど絵画の視点から分析する必要もあるが、この絵は大野が杉野のスケッチブックに描いたものである可能性が高い。このページに挟み込まれていた大野の

表 1. 杉野俊三郎氏関係資料一覧.

県立中央博物館資料番号	資料名	数量	法量	年代	資料状況
CBM-HM 638-0001-0001	サーベル（柄と刀身一部）	1	刀身含む長20.0×幅11.0×厚5.5 ※鞘に納めた状態の全長85.5×幅11.0×厚5.5		拵のみ受け入れ、刀身は切断済み。樋あり。刃文は均一。刃はつぶされている。護拳部分にやや錆びあり。赤錆、傷が散見。 638-0001-0002とセット。
CBM-HM 638-0001-0002	サーベル（鞘）	1	長73.5×幅2.5		赤錆、傷が多い。メッキか。638-0001-0001とセット。
CBM-HM 638-0002	サーベル（柄）	1	長23.5×幅4.0×厚2.5cm		護拳及び鍔欠
CBM-HM 638-0003	刀入れヵ	1	φ5.0、長100cm		
CBM-HM 638-0004	胸像	1	胸像：高32.0×幅27.0×奥行15.0 木箱蓋：縦36.0×横30.5×厚2.0	昭和14年(1939)	胸像背面に刻あり。「昭和十四年九月吉辰　東寶　今井理輔」 木箱蓋に墨書あり。表面「杉野部隊長御胸像」、裏面「敬贈　昭和十四年師走東宝京都撮影所長　今井理輔　杉野部隊長　杉野俊三郎殿」
CBM-HM 638-0005	スケッチブック	1	縦22.0×横25.0×厚1.0	昭和10年代	四つ目綴じ、33丁。1丁表から32丁表まで使用されている。イラストや画家・大野隆徳略歴挟み込みあり。
CBM-HM 638-0006	写真アルバム「ALBUM」	1	縦18.0×横28.0×厚2.0	大正13年～昭和2年	表紙「ALBUM」、バラの絵。銀ねず色の台紙に写真貼付。白インクで写真の説明書き。
CBM-HM 638-0007	写真アルバム「Photographs」（中表紙）「写真帖　S.SUGINO」	1	縦24.0×横31.0×厚2.0	昭和3年～昭和14年	中表紙手書き「寫眞帖　S.SUGINO」。装幀布張り、破れあり。黒の台紙に写真貼付。
CBM-HM 638-0008	写真アルバム「Album」	1	縦27.0×横36.0×厚2.5	昭和10年～昭和12年	黒ビロードの装幀、黒の台紙に写真貼付、白インクで写真の説明書き。
CBM-HM 638-0009	写真アルバム「Photo Album」	1	縦29.5×横24.0×厚2.0	大正8年～昭和17年	表紙「Photo Album」、表紙に鹿のデザイン。
CBM-HM 638-0010	写真アルバム	1	縦34.0×横28.0×厚4.0	昭和32年～昭和39年	布張り装幀。千葉県内で撮影された写真。
CBM-HM 638-0011	絵はがきアルバム	1	縦25.0×横20.0×厚5.5	昭和時代	「杉野写」などの署名の入った手書きの絵はがきと、満州国の名所旧跡などを写した市販品の絵はがき（未使用・杉野宛のものどちらもあり）。アルバム装幀は紺布地。黒い台紙に絵はがきの四隅が挟んである。昭和20年代までに作成されたものが多くを占める。
CBM-HM 638-0012	刀袋	1	長133.0×幅10.0		袋：木綿、房：化繊ヵ
CBM-HM 638-0013	杉野俊三郎氏写真（写真立て）	1	縦20.0×横15.5×厚2.5		木製写真立てに入っている。
CBM-HM 638-0014	杉野俊三郎氏写真（プリント）	1	縦29.0×横19.5		
CBM-HM 638-0015	『旧第一軍通信部隊想い出のアルバム』	1	縦33.7×横32.0×厚2.0	昭和53年(1978)	服部達也編『旧第一軍通信部隊想い出のアルバム』昭和53年発行、山西友の会。本書製作時にはすでに俊三郎氏は故人で、妻の多津枝氏が協力者に挙げられている。2代目の電信第9連隊長として杉野の写真が掲載されている。



大野隆德略歴

書歴

○千葉縣人、東京美術學校洋畫科ヲ首席ニテ卒業、卒業時巡特俸生
○大正十一年ヨリ同十三年迄洋行
○現住所　東京市豊島區西巣鴨三ノ七六六、同所ニ研究所ヲ設ケ後進ヲ指導ス
○新帝國美術院推薦（昭和三年五月）
（二、又ハ三回以上特選ノ光榮ヲ得タルモノニシテ永久無鑑査出品シ得ルモノ）
○光　風　會　員

入選及受賞作品

○美術學校在學中文展ニ入選以來今日迄連續入選出品
○第六回文展（美術學校在學中ノ初入選）ニ於テ褒狀首席「藤棚ヲ拾フ兒等」
（男爵住友吉左衛門氏蔵）
○第九回文展ニ於テ三等賞「麥ハタキニ改「來合桃ノ花咲クロ」
○第十一回文展特選受賞「馬原ニ働ク人」（神戸商工會議所會頭　岡崎忠雄氏蔵）
○大正博ニテ二等賞銀牌受領「木蔭ノ人等」（宮内省御所蔵）

○第一回帝展ニテ特選受領「風ギタル海」（佐多家蔵）
○國民美術協會ニテ雨潤會受賞「山國ノ収穫」
○東京勤樂博覽會ニテ三等賞「公園ノ坂路」（東京瓦斯株式會社蔵）

宮中御買上

○大正博覽會ニ於テ　大正天皇行幸ノ際三等賞受賞ノ「木蔭ノ人等」
○國民美術協會出品「夏ノ底國」
○昭和十年四月大倉陶園繪皿ノ會ニ出品セル繪皿「セキセイ」

其他

○一九二一年巴里滞在中サロン、ナショナル展ニ一部撤廻「出品好評ヲ博ス
○一九二二年巴里ナショナル展ニ「伊太利風景」出品
○昭和七年國立公園協會ヨリ依嘱セラレ十和田湖ノ「奥入瀬渓流」ヲ描ク（内務省蔵）
○昭和十二年十一月海軍ヨリ御用命ニ由リ潜水母艦「剣崎」ノ公室用トシテ「明治神宮内苑ノ秋」「甲子園泉ノ山々」「妙高山麓ノ秋」ノ三点ヲ上納ス

図 3. 大野隆徳略歴.

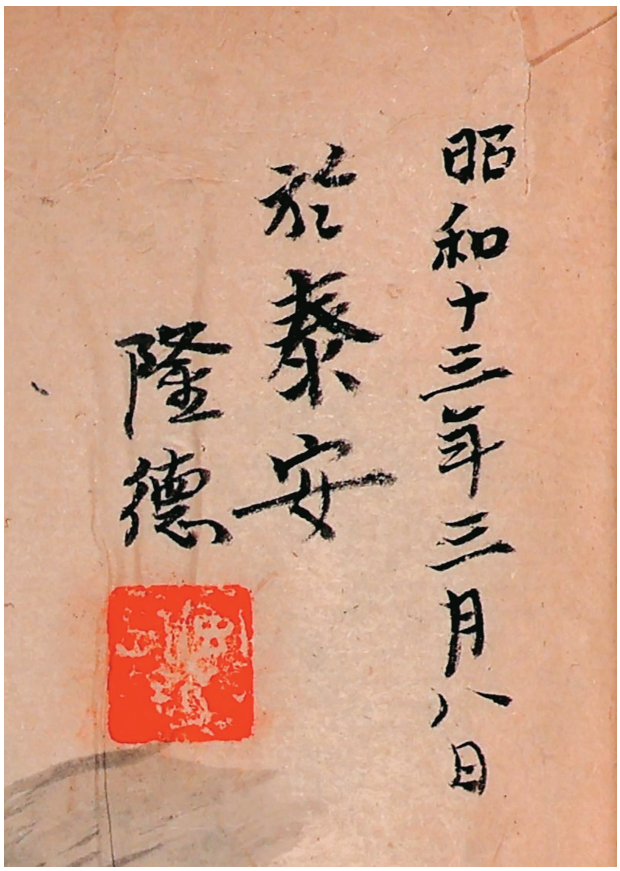


図 4.「昭和十三年三月八日　於泰安　隆徳」. 署名部分拡大

略歴には昭和 12 年（1937）11 月までの情報が印刷されており、北支訪問中に会った人々へ名刺代わりにこれを渡していたことも想像できる。

②中島清之（1899 生～ 1989 没）

31 丁表には、子どもを抱きかかえる女性の絵と「十月十日　北京杉野隊本部ニテ　清之□□」との署名が書かれており、この「清之」は、画家の中島清之と推測される。

中島の日記を分析した内山淳子によれば、中島は昭和 13 年（1939）9 月下旬に横浜市から派遣された慰問使として北京へ赴き、10 月 9 日に北支那方面軍司令官の寺内寿一を訪ねて北部への鉄道乗車許可証を受け取り、11 日から張家口、包頭、厚和、大同、石家荘、太原、北京と移動しながら各司令部を訪れた。各部隊では士官らとの談話や似顔絵描き、軍事演習の見学、戦没者慰霊祭へも参加してその合間に山容や街の人々の写生を行ったという。［内山 2018：51］

内山が報告した中島の旅程と、絵に記された「十月十日　北京杉野隊本部ニテ」は時期が一致するため、杉野

表 2. 杉野俊三郎氏軍歴.

年月日	任用進級昇給	その他
大正 7 年 12 月 1 日	陸軍工兵少尉	
大正 11 年 3 月 6 日	陸軍工兵中尉	
大正 12 年 8 月 15 日		※サガレン派遣電信隊有線電信班（大正 14 年 4 月 16 日小樽港上陸）
昭和 3 年 8 月 10 日	陸軍工兵大尉	
昭和 7 年 6 月 26 日		満州派遣
昭和 10 年 8 月		満州帰還陸軍通信学校副官
昭和 11 年 3 月 7 日	陸軍工兵少佐	
昭和 12 年 8 月 20 日		※北支派遣軍
昭和 15 年 3 月 1 日		北支から帰還
昭和 15 年 8 月 1 日	陸軍工兵中佐	
昭和 18 年 2 月 11 日		北支電信第 9 連隊長派遣
昭和 20 年 3 月 1 日	陸軍大佐	
昭和 21 年 4 月 10 日		※太原連絡員として北支に服務
昭和 23 年 5 月 28 日		※塘沽港出発
昭和 23 年 6 月 2 日		佐世保港上陸、復員

（軍歴情報は履歴申立書による）

※注
サガレン…サハリン（樺太）のこと。北サハリンへ派遣された軍を「サガレン州派遣軍」といった。
北支…中国北部。現在の華北地区に相当する。当時は「北支」「北支那」と呼ばれていた。
太原…山西省の地名。「たいげん」、「タイユェン（Tàiyuán）」。
塘沽…現在の天津市にあたる地域。渤海湾に面する。「とうこ」、「タンクー（Tánggū）」。

部隊を訪れた中島が、杉野の求めに応じてスケッチを描いた可能性が高い。

③スケッチブックの作成時期

このスケッチブックの 3 丁表には漢詩と共に「昭和十三年十月」と記されているが、このページ以降の絵の日付から考えてこれは「昭和十二年」の誤りであろう。続く見開き 4 丁表には「十月」、5 丁表には「昭和十二年十二月十二日」と続き、31 丁表に中島の筆と考えられる「十月十日」の絵が描かれている。これらの日付と、杉野は昭和 12 年（1937）8 月 20 日から昭和 15 年（1940）3 月 1 日まで北支に派遣されていたこと、昭和 13 年（1938）に北支を訪れた画家たちの絵が掲載されている

図 5. スケッチブック（左）と絵はがき（右）の対応.

表 3. スケッチブックと絵はがきの対応.

番号	モチーフ	スケッチブック	絵はがき
1	石垣跡か	1 丁表、署名なし、墨書	署名なし、彩色
2	天秤棒を担ぐ人	11 丁表、署名なし、墨書、天秤棒の男性のほかに男性 2 人が描かれている	郵便はがき通信面に絵、「□□所見 杉野少佐」、杉野印、彩色
3	城門	13 丁表、署名なし、墨書	郵便はがき通信面に絵、「□□城門 杉野少佐」、杉野印、彩色
4	車列	19 丁表、署名「吟汀」、墨書	郵便はがき通信面に絵、「砂塵を□□て　杉野写」、杉野印、彩色
5	撥鶴瓶で水を汲む人	20 丁表、短歌と「吟汀」の署名あり、墨書	郵便はがき通信面に絵、「水汲み□□所見　杉野写」、杉野印、彩色
6	大八車に腰かける人	23 丁表、署名なし、墨書	署名なし、彩色
7	建物	24 丁表、署名なし、墨書	署名なし、彩色
8	入浴する人（杉野自身か）	27 丁表、署名なし、墨書	郵便はがき通信面に絵、「陣中風流 杉野少佐」、杉野印、彩色
9	卵売りの人	29 丁表、鉛筆でアタリを取った後墨書、署名なし	郵便はがき通信面に絵、「卵賣り 杉野写」、杉野印、彩色、スケッチより細部まで描き込まれている

ことから、このスケッチブックの絵は昭和 12 年 10 月ころから翌13年10月ころにかけて描かれたと推測される。

④絵はがきとの対応

このスケッチブックの絵をもとに杉野が描いたと考えられる絵はがきが、資料「絵はがきアルバム」（HM 638-0011）に 9 点ある（表 3、図 5 参照）。スケッチブック 1 丁表〔石垣跡〕、11 丁表〔天秤棒を担ぐ人〕、13 丁表〔城門〕、19 丁表〔車列〕、20 丁表〔撥鶴瓶で水を汲む人〕、23 丁表〔大八車に腰かける人〕、24 丁表〔建物〕、27 丁表〔入浴する人〕、29 丁表〔卵売り〕である（いずれも仮題）。

〔天秤棒を担ぐ人〕、〔車列〕、〔撥鶴瓶で水を汲む人〕のスケッチと絵はがきの比較から、スケッチブックに描かれたモチーフの一部を抜き出して絵はがきを描いていることがわかる。傾向として、スケッチブックの絵の方が細部まで描き込まれている。

また署名については、スケッチブックの絵に署名がある場合は、絵はがきには「杉野写」と書かれる傾向がある。例えば、〔車列〕には「吟汀」の署名があり、絵はがきには「杉野写」の文字と杉野の印がある。〔城門〕に署名はないが、絵はがきには「杉野少佐」と書かれ杉野の印がある。ただし、〔卵売り〕は絵はがきの方がより細部まで描き込まれているものの「杉野写」とあるなど、署名の「杉野少佐」と「杉野写」の使い分け基準は判然としない。杉野が自身のスケッチをもとに描いた絵はがきと、第三者が描いたスケッチを杉野が模写して描いた絵はがきが混在すると考えられるが、杉野の美術的素養や活動を証する資料は残存しないため、推測の域を出ない。

なお、大野隆徳や中島清之の筆とされる絵は、画集や日記などの文献情報をもとに彼らの絵であると推定している。本人のものと断定するには、絵画の専門家等によるさらなる検証が必要である。

（3）杉野俊三郎胸像

資料「胸像」（HM 638-0004）は、杉野俊三郎を象った胸像で、北支従軍時の部下から杉野が贈られたものである（図 6）。少佐だった昭和 14 年（1939）に「第 37 回支那事変生存者行賞」の一般殊勲者となったことを記念して［同盟通信社 1942：16］、東宝京都撮影所長今井理輔より贈られたものと推測される。

①杉野俊三郎胸像の情報

胸像背面に刻あり（図 7）。「昭和十四年九月吉辰　東寶　今井理輔」

図 6. 胸像正面.

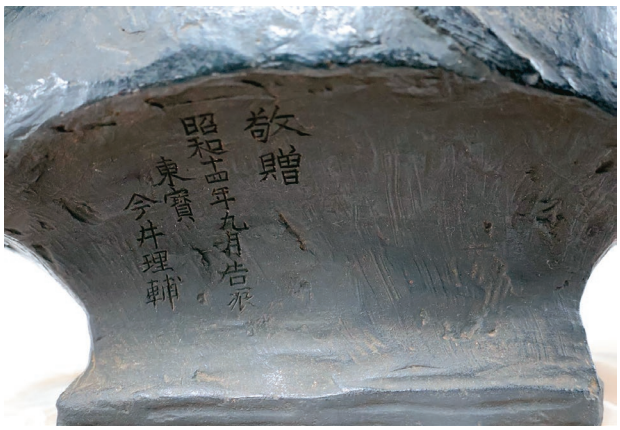


図 7. 胸像背面.

図 8. 胸像蓋の墨書.（左：表面、右：裏面）

木箱の蓋に墨書あり（図 8）。表面「杉野部隊長　御胸像」、裏面「敬贈　昭和十四年師走　東宝京都撮影所長　今井理輔　杉野部隊長　杉野俊三郎殿」

②贈呈者　今井理輔の情報

映画製作者。昭和 12 年（1937）5 月に今井映画製作所を設立するも同年徴兵された [6]。同年 10 月ごろまでに出征、11 月時点では北支派遣中尾部隊須藤隊の軍曹として天津郊外にあった [7]。12 月 1 日頃に須藤隊の所属が中尾部隊から杉野部隊へ変わったことで [8]、今井は杉野の部下となったと考えられる。今井は東宝で数々の映画製作に携わっており、日本映画史においても名が知られた人物である。

③造像の経緯

昭和 13 年（1938）暮れ、今井は杉野部隊で戦功を挙げたことから杉野より戦時表彰の推薦を受けた。胸像は、この戦時表彰推薦や従軍中の厚誼に対する今井からの返礼、あるいは部隊長として同じく軍功を挙げていた杉野の祝賀として贈られたと推測される。また、戦時表彰の経緯は杉野自らが部隊の戦果の一例として紹介するなど [9]、杉野にとっても思い入れ深く特別なものであったと考えられる。本資料は杉野・今井両氏の特別な信頼関係により造像されたといえ、映画人今井理輔の従軍期を物語る資料としても評価できる。

3．資料群の意義と今後の活用

本資料群の主たる意義は次の 2 点にあると考える。一つは、戦地における杉野の人間関係や、戦地への視線という内心･心象を伺わせる資料であること。スケッチブック（HM 638-0005）はその最たる資料であり、従軍画家が描いたと思われる絵が複数含まれることは、戦地における軍人と従軍画家との文化的な交流を物語る。戦場へ赴いた軍人たちも、豊かな感性を有する「人」であったことを改めて思い出させるこの異色の資料群を、終戦から 80 年の節目に収集できた意義は大きく、今後は展示や戦争教育などの場面での活用が想定される。

もう一点は千葉県との関わりである。杉野自身の千葉県との関わりは戦後に移り住んでからと思われるが、スケッチブックには千葉県山武郡出身の画家 大野隆徳によると考えられる絵があった。千葉県では県立美術館が大野の作品を収集しており、16 点を収蔵するが [10]、今回新たなスケッチが県内で見つかったことにより、大野の画業に関する美術史研究の深化や、県立美術館と連携した調査研究・展示など、多分野にわたる活用が見込まれる。

本資料群の受贈は、行政と博物館の速やかな連携と市民からの相談に即応できる博物館の体制、そして寄贈者の協力によって可能となった。また受贈後も担当者が調査研究を継続できる環境があったことで、本県ゆかりの画家の新たな作品の発見にも繋がった。博物館の根幹である「資料収集」･「調査研究」が十全に機能した結果といえよう。本稿は、資料群の特色を紹介することで資料利用の促進を期するものであるが、今後はデジタルアーカイブ化と展示・普及事業での活用を通じ、さらに広く一般に公開していきたい。

謝辞

杉野俊三郎氏に関する情報収集にあたっては、ご遺族である杉野秀樹氏より多大なるご協力を頂きました。この紙面を借りて御礼申し上げます。

筆者のうち鈴木は、千葉県立中央博物館の市民研究員として本研究に参加しました。

注

(1) 昭和 35 年（1960）頃には君津郡大佐和町（現在の富津市）に住んでいたとみられる記録がある［偕行社 1960：23］。逝去を伝える記事では「千葉市の杉野俊三郎君は二年前から脳溢血で療養中のところ」［偕行社 1963：16］とあるため、この 3 年の間に千葉市へ転居したと考えられる。なお資料「写真アルバム」（HM 638-0010）に貼付されていた記事「伝心袋」（出典不明）には、復員後 3 年を岡山で過ごし、昭和 26 年（1951）上京して社会事業会館にて勤務したのち岡山へ帰農、千葉県へ転居し長浦干拓事務所に勤務したが自宅を火事で焼失したため千葉市内に移った後発病したとある。

(2) ミリタリー・カルチャー研究会の「戦友会データベース」による。「山西友の会」所在地は東京都、部隊名電信第 9 連隊、通称号乙 3506、作戦地域は相模原、北支各地とある。［最終閲覧日 2024-10-24］https://www.military-culture.jp/database/about/

(3) 大野隆徳は明治 19 年（1886）12 月に千葉県山武郡福岡村に生まれ、旧制千葉中学校時代に堀江正章に師事して洋画を学び、上京して東京美術学校に入学した。昭和 6 年（1931）に大野洋画研究所を創立して後進の育成にあたる。従軍画家として昭和

13 年（1938）2 月から 4 月に北支方面へ、昭和 13 年 9 月に陸軍省嘱託として中支那方面へ派遣された［大野 1939］。昭和 20 年（1945）3 月 10 日の東京大空襲で被災し死去した。

（4）中島清之は明治 32 年（1899）3 月 8 日京都府山科に生まれた。本名は清。大正 5 年（1916）に横浜へ移り松本楓湖の安雅堂画塾に入門、会社勤めをしながら作品制作を行った。大正 13 年（1924）第 11 回院展で初入選、昭和 3 年（1928）に日本美術院院友となり以降も院展に出品した。［東京文化財研究所 2025］

（5）「日本陸軍電信史年表」には昭和 12 年（1937）8 月 30 日、豊橋において第 1 軍通信隊編成完結とある。第 1 軍通信隊は昭和 13 年 7 月 7 日、太原において第 4 通信隊に改編、さらに昭和 15 年（1940）4 月 6 日に同じく太原において電信第 9 連隊に改編したとある。なお連隊本部は太原に置かれた。［山西友の会 1985：171−172, 174, 188］

（6）今井映画製作所は、マキノ・トーキー解散後にその撮影所を利用して昭和 12 年 5 月に創立されたが、翌年 2 月に東宝映画京都撮影所へ吸収されている。昭和 12 年に 16 本、13 年に 6 本の映画を配給した。［東宝三十年史編纂委員会編 1963：302、304］［マキノ 1977：392］

（7）東京日日新聞 昭和 12 年 11 月 11 日付記事「意外・戦線に聴く長二郎 “ 引抜き ” の真相　軍曹撮影所長の暴露」より。「今井理輔氏が松竹対東宝の扮擾（ママ）を外にして応召、北支戦線に現れた、七日天津郊外の須藤部隊に訪ねると、今井所長殿、いまでは一軍曹として甲斐々々しく働いてゐる」とある［入江ほか編 1985：501］。

（8）国際平和ミュージアム蔵、吉原與一郎氏作成の書簡による。資料番号 38051 書簡の作成者名「北支派遣杉野部隊 須藤隊 吉原與一郎」、資料番号 38059 書簡の宛先を中尾部隊から杉野部隊に変えてほしいとの記述、資料番号 38124 書簡の記述より所属変更時期を推測した。

（9）杉野俊三郎は『雄弁』昭和 15 年 6 月号掲載の「黙々として活躍する通信部隊」において下記のように記している。

> 一例を挙げれば京都の東寶映畫撮影所長の今井利輔（ママ）曹長（當時軍曹）が抜群の殊勲を現はしたのも、さういふ状況に於いてゞあった。昭和十三年の暮れであつたが、北支の某地點で保線警戒中、三百名ばかりの敵兵に包囲され、彈丸を射ち盡して今はこれまでとばかり今井曹長は傳家の寶刀を抜いて、敵陣に切り入つた。見る／＼敵兵を五、六人を薙ぎ倒すとこれに励まされて部下も一斎に突つ込む。その勢ひに呑まれて、敵は總崩れになり、遺棄死體十五六を残して敗走した。敵は最初鉄道破壊の目的で襲撃したのであるが、これを見事に撃退して、□せて通信部隊本来の■■の任務で全うしたのである。今井曹長は病氣歸還中であるが、社會的に相當の地位ある人で率先してかゝる勇敢な挙に出たのは賞すべきものとして、當時私は表彰の手續きをとつた。［杉野 1940：109-110］

（10）千葉県立博物館資料データベースによる。検索ワードは「大野隆徳」。［最終閲覧日 2025-10-26］https://search.chiba-muse.or.jp/chiba_museum/

引用文献・ウェブサイト

入江徳郎ほか（編）1985『新聞集成昭和史の証言』第 11 巻、本邦書籍
（国立国会図書館デジタルコレクション https://dl.ndl.go.jp/pid/12396683［最終閲覧日 2024-10-24］））
内山淳子 2018「研究ノート　中島清之の戦時日記　1938 年～1939 年より」横浜美術館学芸グループ編『横浜美術館研究紀要』第 19 号、横浜美術館
大野隆徳（編）1939『大野隆徳北支中支従軍画集』美術工芸会
山西友の会（編）1985『萬里一條鐵　教材編』山西友の会
杉野俊三郎 1940「黙々として活躍する通信部隊」『雄弁』昭和 15 年 6 月号
東宝三十年史編纂委員会（編）1963『東宝三十年史』、東宝
同盟通信社 1942『同盟旬報』第 6 巻第 8 号、3 月中旬号、同盟通信社
マキノ雅弘 1977『マキノ雅弘自伝　映画渡世 天の巻』、平凡社
（国立国会図書館デジタルコレクション https://dl.ndl.go.jp/pid/12437444［最終閲覧日 2025-10-11］）
偕行社 1960『偕行』107 号（昭和 35 年 5 月号）、偕行社
偕行社 1963『偕行』143 号（昭和 38 年 5 月号）、偕行社

国際平和ミュージアム
資料番号 38051
https://wwwb2.musetheque.jp/ritsumeikan_peacearchives/detail?cls=kitakukizo&pkey=00,38051　［最終閲覧日 2024-10-29］
資料番号 38059
https://wwwb2.musetheque.jp/ritsumeikan_peacearchives/detail?cls=kitakukizo&pkey=00,38059　［最終閲覧日 2024-10-29］
資料番号 38124
https://wwwb2.musetheque.jp/ritsumeikan_peacearchives/detail?cls=kitakukizo&pkey=00,38124　［最終閲覧日 2024-10-29］
千葉県立博物館　資料データベース
https://search.chiba-muse.or.jp/chiba_museum/
東京文化財研究所「物故者記事　中島清之」
https://www.tobunken.go.jp/materials/bukko/9975.html　［最終閲覧日 2025-10-29］
ミリタリー・カルチャー研究会「戦友会データベース」
https://www.military-culture.jp/database/about/［最終閲覧日 2024-10-30］

On the Newly Acquired Collection Materials of the Natural History Museum and Institute, Chiba: Materials Related to Mr. Shunzaburo Sugino

Rina Tamai[1)*], Kento Suzuki[2), 3)], Kayo Sonobe[1)]

[1)]Natural History Museum and Institute, Chiba
955-2 Aoba-cho, Chuo-ku, Chiba 260-8682, Japan
[2)]Cultural Promotion Division, Sports and Culture Bureau, Environmental and Community Affairs Department, Chiba Prefectural Government
1-1 Ichiba-cho, Chuo-ku, Chiba 260-8667, Japan
[3)]Citizen Researcher, Natural History Museum and Institute, Chiba
*E-mail: r.tmi7@pref.chiba.lg.jp

The collection of materials related to Mr. Shunzaburo Sugino, who served in northern China and other regions as part of the Army Telegraph Corps during the early Showa period, was donated to the Natural History Museum and Institute, Chiba, on 15 May 2025. This collection encompasses several paintings, believed to have been created by war artists, which illustrate the cultural exchange between soldiers and war artists on the battlefield. Alongside other materials, the collection provides valuable insights into Sugino's interactions on the battlefield, as well as his personal reflections and perceptions of the wartime environment. It is anticipated that these materials will be utilized in exhibitions and war education, as well as in a variety of other fields, including research and exhibitions in collaboration with the Chiba Prefectural Museum of Art.